

会計アドバンス演習		講義	教授 安藤 鋭也
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 選択必修科目	科目ナンバリング	23010201

1. 授業のねらい・概要

会計に関する基礎知識（例えば「会計学基礎」「会計学総論」「財務会計論」を履修）を前提にして、「ビジネスの言語」としての会計を学びます。また日商簿記検定試験に合格（またはチャレンジ）されているといった、会計プロフェッション志望の方も歓迎します。異なる立場や考え方の皆さんが、ともに会計に接することは（特に卒業後の実社会において）有益だからです。そのため本演習においては、皆さんの希望を丁寧に聞き、積極的に採り入れます。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とします。皆さんの希望によっては、輪読形式でも構いません。職業としての会計プロフェッション（例えば税理士、公認会計士）に関心があれば、必要な指導も行います。

3. 授業計画

概ね以下の通りです。皆さんの希望を出来るだけ採り入れます。主役は皆さんです。相談しながら進めましょう。

1. ガイダンス、企業会計を学ぶ（序章）	9. 費用の認識と配分（第5章）
2. 企業会計の役割（第1章）	10. 費用の認識と配分（同上）
3. 企業会計の仕組み（第2章）	11. 負債の認識と測定（第6章）
4. 企業会計の仕組み（同上）	12. 負債の認識と測定（同上）
5. 資本と利益の情報（第3章）	13. 純資産の開示と規制（第7章）
6. 資本と利益の情報（同上）	14. 企業結合の会計情報（第8章）
7. 収益認識のルール（第4章）	15. まとめ、日本の会計制度改革（第9章）
8. 収益認識のルール（同上）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を事前に読んできて下さい（30分程度）。また学修内容の定着には復習が欠かせません。前回の授業内容は、配布プリントやノートも使って理解に努めて下さい（1時間程度）。もし不明点や疑問点があれば、メールや次の授業で遠慮なく質問して下さい。一緒に考えましょう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際は、解答のポイントや出題意図を（試験）終了後に説明します。

6. 授業における学修の到達目標

現代の会計基準や会計制度が、企業活動にどのような影響を及ぼしているかを理解することが目標です。

7. 成績評価の方法・基準

平常点 50%（授業への取り組み姿勢など）および試験の結果 50%で成績評価を行います。

8. テキスト・参考文献

テキストは、斎藤静樹（2016）『企業会計入門 補訂版』有斐閣を使用します。本テキストは改訂される可能性があります。授業では最新版を使用します。参考文献は適宜紹介します。

9. 受講上の留意事項

皆さんが将来、様々な分野の実務家・専門家として、活躍するためのベースとなる会計の知識（会計リテラシー）を身につけてもらいたいと思います。皆さんの主体的・積極的な参加を心から歓迎します。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本ゼミは、商社（経理部門）における実務経験も活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりです。